

# エアゾール缶等による火災・事故をなくそう

## 《エアゾール缶等に関わる火災及び事故の発生状況》

### 1 火災の発生状況

エアゾール缶及び簡易型ガスこんろ燃料ボンベ（以下「エアゾール缶等」という。）による火災は過去10年間で1,086件発生しています。平成23年の155件から減少傾向で推移し、平成29年から令和元年までは100件を下回りましたが、令和2年は101件発生しています（図1）。

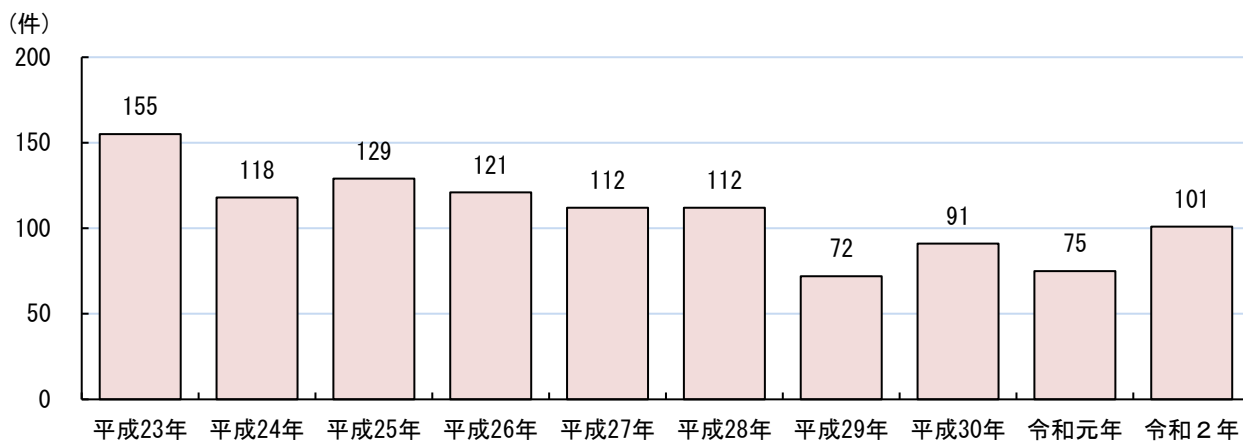


図1 エアゾール缶等による火災発生件数の推移（過去10年間）

令和2年中のエアゾール缶等による火災の主な原因は、「穴開け」が最多の30件（29.7%）、次いで「ごみ収集車」の14件（13.9%）などとなっています。過去10年間でみると「ごみ収集車」は359件（33.1%）、「穴開け」は253件（23.3%）でこの2項目で半数以上を占めています（表1）。



表1 エアゾール缶等による過去10年間の火災発生状況

火災発生要因	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	合計
ごみ収集車※1	77	52	51	45	41	32	16	14	17	14	359
穴開け※2	23	26	30	29	25	36	21	20	13	30	253
その他(廃棄)	11	6	8	3	8	3	2	2	3	3	49
暖房器具近接	7	6	7	5	5	3	5	10	7	8	63
厨房器具近接	3	7	8	10	2	3	5	9	7	4	58
装着不良	9	4	7	8	5	4	4	7	5	7	60
その他※3	25	17	18	21	26	31	19	29	23	35	244
合計	155	118	129	121	112	112	72	91	75	101	1,086

※1 「ごみ収集車」とは、エアゾール缶等の廃棄方法や分別が不十分であったため、ごみ収集車内で発生した金属の火花が残存ガスに引火し出火したものです。

※2 「穴開け」とは、エアゾール缶等を廃棄する目的で、缶に穴を開けた際に、近くで使用していたガスこんろの炎等が、噴出した残存ガスに引火し出火したものです。

※3 その他には、「取扱不適」などを含んでいます。

令和2年中の火災を発生させた行為者63人（不明を除く。）を年代別で見ると、70歳以上の19人が最も多く、次いで40歳代の16人となっています（図2）。

また、過去10年間のエアゾール缶等に起因する火災による死傷者は564人で、死者が2人、負傷者が562人発生しています。このうち中等症以上のけがを負った人（死亡を除く。）が4割以上を占め、顔や気道などにやけどを負っています（表2、表3）。

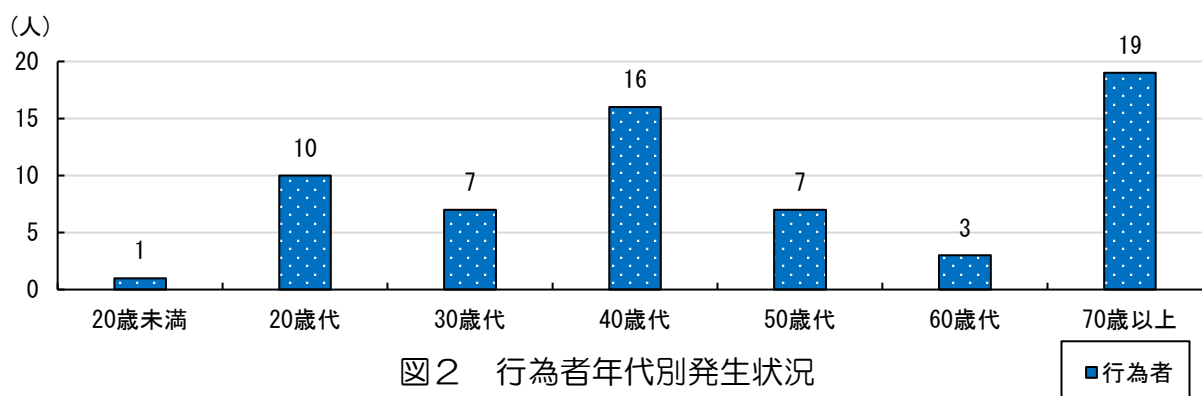


表2 エアゾール缶等による火災の死傷者発生状況（過去10年間）

年 別	火 災 件 数 (件)	死 傷 者 数 合 計 (人)	負 傷 者 数 (人)					死 亡 (人)	中 等 症 以 上 の 負 傷 者 数 (死亡を除く。) (人)	中 等 症 以 上 の 割 合 (死亡を除く。) (%)
			小 計	重 篤	重 症	中 等 傷	軽 症			
平成23年	155	62	62	1	9	14	38	-	24	38.7
平成24年	118	41	41	-	8	16	17	-	24	58.5
平成25年	129	55	55	3	6	17	29	-	26	47.3
平成26年	121	61	60	1	7	21	31	1	29	48.3
平成27年	112	59	59	1	6	17	35	-	24	40.7
平成28年	112	73	73	1	4	27	41	-	32	43.8
平成29年	72	42	41	2	3	11	25	1	16	39.0
平成30年	91	57	57	2	3	15	37	-	20	35.1
令和元年	75	51	51	3	3	14	31	-	20	39.2
令和2年	101	63	63	2	4	19	38	-	25	39.7
合 計	1,086	564	562	16	53	171	322	2	240	42.7

- 軽 症・・・輕易で入院を要しないもの
- 中等症・・・生命の危険はないが入院を要するもの
- 重 症・・・生命の危険が強いと認められたもの
- 重 篤・・・生命の危険が切迫しているもの

表3 エアゾール缶等による火災の受傷部位別負傷者数（過去10年間合計）

受 傷 部 位	熱 (火) 傷	擦 過 傷 (創)	気 道 炎	挫 傷 (創)	咽 喉 炎	切 創	一 酸 化 炭 素 中 毒	眼 炎	そ の 他	合 計
顔 部	154	-	-	1	-	1	-	2	1	159
気 道	85	-	6	-	5	-	-	-	11	107
手 部 (手のひら)	71	3	-	1	-	2	-	-	-	77
前腕部(肘から先)	59	-	-	-	-	-	-	-	1	60
上 半 身	33	-	-	-	-	-	-	-	-	33
全 身	24	-	-	-	-	-	4	-	4	32
上腕部(肘から上)	27	1	-	-	-	-	-	-	-	28
頭 部	21	-	-	1	-	1	-	-	3	26
足 部	12	1	-	1	-	-	-	-	1	15
下腿部(膝から足首)	12	1	-	1	-	-	-	-	-	14
そ の 他	9	-	-	-	-	-	-	-	4	13
合 計	507	6	6	5	5	4	4	2	25	564

## 2 事故の発生状況



エアゾール缶等による事故\*は過去10年間で98件発生しています。「その他」を除く過去10年間の事故原因を見ると、最も多いのは廃棄するためにエアゾール缶等に穴を開けた際に噴出した残存ガスに、ガスこんろ等の炎が引火してやけどを負うなどの事故で、29件発生しています(表4)。

※ 「事故」とは、火災に至らず、やけど等のケガを負ったものです。

表4 過去10年間のエアゾール缶等による主な原因別事故件数

主 な 原 因	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	令和 2年	合計	割合 (%)
穴 開 け	2	10	1	3	-	5	2	6	-	-	29	29.6%
その他(廃棄)	-	-	2	2	1	2	3	-	-	-	10	10.2%
厨房器具近接	3	2	3	1	-	-	-	3	-	2	14	14.3%
暖房器具近接	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0%
装着不良	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2.0%
そ の 他 (取扱不適含む)	4	6	4	6	3	7	7	2	3	1	43	43.9%
合 計	9	20	10	12	4	14	12	11	3	3	98	100%

### 《近年発生したエアゾール缶等に起因する火災・事件事例》

#### ● 事例 1

自宅居室内で、電気ストーブのガード付近に殺虫剤を置いた状態で電気ストーブを使用したため、殺虫剤が熱せられ、スプレー缶の内圧が高まって破裂し、漏れたガスに引火し出火した。  
(建物部分焼) (70歳代 重篤)

#### ● 事例 2

入浴中に害虫が出たため、殺虫剤を噴射したところ、殺虫剤から噴出されたガスに風呂釜の種火が引火し出火した。  
(建物ぼや) (30歳代 負傷者なし)

#### ● 事例 3

IHコンロ上にガスボンベを置いたままIHコンロで調理をしていたところ、ガスボンベが加熱され破裂し、ボンベの破片で受傷した。  
(20歳代 中等症)

#### ● 事例 4

車両のバッテリー交換作業中に、バッテリー端子付近に潤滑スプレーを噴射しようとしたところ、突然炎が立ち上がり、受傷した。  
(60歳代 軽症)

#### ● 事例 5

台所で鍋を火にかけていた際に、虫が鍋の上部に飛んできたため殺虫剤を噴射したところ、調理中の火がガスに引火し、受傷した。  
(50歳代 軽症)

## 《エアゾール缶等の火災・事故を防ぐために》

- ① エアゾール缶には、LPG などの可燃性ガスが噴射剤として使われている製品が多いので、使用前に必ず製品に記載されている注意書きを確認してください。(エアゾール製品は、本来の用途以外に使用しないでください。)
- ② やむを得ず使い切らずに捨てる時には、火気のない通気性の良い屋外で残存ガスがなくなるまで噴射し廃棄してください。
- ③ エアゾール缶等を廃棄する場合は、必ず中身を使い切り、各区市町村が指定するごみの分別を守って捨ててください。
- ④ エアゾール缶等は、厨房器具や暖房器具付近の高温となる場所や、直射日光と湿気を避けて保管し、厨房器具や暖房器具等の付近では使用しないでください。
- ⑤ カセットボンベは、カセットこんろ本体に正しく装着されていることを確認してから使用してください。
- ⑥ カセットこんろを複数並べて鉄板をのせること、カセットボンベカバーを覆うような大きな鍋等の使用や、練炭等の炭おこしは、燃料ボンベが過熱され、破裂する危険がありますので絶対に行わないでください。

※ 火災を防ぐためにガス抜きキャップを使ってエアゾール缶等の中身を出し切る廃棄方法を、一般社団法人日本エアゾール協会のホームページで紹介しています。詳細は、下記のQRコードから確認できます。

**必ずお守りください**

SPRAY スプレー  
GAS ガス  
カセットボンベ

スプレー缶(エアゾール缶)  
カセットボンベは

**必ず中身を使い切りましょう!!**

**火災事故が多発しています!**

中身の残ったスプレー缶、カセットボンベが  
ごみに出されごみ収集車両や、ごみ処理施設で、  
火災が発生しています。

スプレー缶の場合↓

**正しいごみへの出し方 4step!**

step 1 缶を手で握って  
中身の有無を  
確認してください。

step 2 「シャカシャカ」  
「チャップチャップ」  
など音がするまで  
噴射してください。

step 3 音がしなくても、まだ中身のガスが  
残っている場合があります。  
「ガス抜きキャップ」で  
出し切ってください。

step 4 地域の  
ごみ出しルールを  
守って出しましょう。

必ず使い切り  
表しよ。

**中身のガスを出し切るために、  
ガス抜きキャップを使いましょう!**

スプレー缶にはガスを出し切るための  
【ガス抜きキャップ】が装着されています。

【ガス抜きキャップ(中身排出機構)】  
【ガス抜きキャップ(残ガス排出用)】  
※商品によっては、  
【ガス抜きキャップ(ボタン)】  
等の表記を行うものがあります。

▼(但し、下記のスプレー缶(エアゾール缶)商品には、ガス抜きキャップは付いていません。  
【例】●炭酸ガス、窒素ガス等の不燃性ガス使用商品(商品の表示をご覧ください)

**ガス抜きキャップを使う時には…**

中身を使い切ってから、  
風通しが良く、火気のない屋外で、  
風下に向けて、人などにかからないように

新聞紙などに吹き付けるなどをして、  
周囲への飛散にご配慮ください。

ガス抜き  
キャップ

ガス抜きキャップの構造、使用目的、種類によって異なります。  
商品に記された使用説明書を必ずご覧ください。

カセットボンベには、【ガス抜きキャップ】は付いていません。

カセットこんろはヒートパネルを搭載しています。(2007年4月現在より)

ヒートパネルとは? (炉内温度検知)

カセットボンベを接続するまで、燃焼まで  
強い火力を維持し、カセットこんろの中身のガス  
を最後まで使い切る事ができます。

カセットボンベの危険  
についてのご質問は、  
一般社団法人日本エアゾール協会  
0120-14-9996 16:00~20:00

●エアゾール製品処理対策協議会  
一般社団法人日本エアゾール協会(エアゾール製造・販売・利用に関する協議会)  
日本エアゾール工業協会 一般社団法人日本エアゾール協会 日本エアゾール工業協会  
日本エアゾール工業協会 日本エアゾール工業協会 日本エアゾール工業協会 日本エアゾール工業協会  
日本エアゾール工業協会 日本エアゾール工業協会 日本エアゾール工業協会 日本エアゾール工業協会  
●中央道 正色処理指定廃棄物対策協議会



一般社団法人  
日本エアゾール協会HP